



茨木の森・八雲の現状と今後

一昨年8月の台風10号は、道南地区に倒木などの爪跡を残したが、当山林は一昨年に5月に約3Haの高林齢の杉、トドマツの人工林を皆伐しており、最小限の被害にとどまった。(前ページ参照)

今後は、一昨年5月に実施した皆伐跡地の針広混交造成(植樹)に続き、残り約2Haの高林齢杉などを伐採のうえ、跡地にトドマツを新植する方向で検討に入った。

北海道・木育フェスタ2017に参加

昨年10月15日、植樹祭・育樹祭の北海道・木育フェスタ2017(第68回北海道植樹祭)が、道民の森神居尻地区(当別町)、「北欧の風 道の駅とうべつ」で開催された。

本会は、道民の森の式典や植樹に13名参加し、当別町道の駅(昨年9月オープン)のミニテント村で催事、協賛行事を見学した。(前ページ参照)



ミニテント村の会場になった「北欧の風 道の駅とうべつ」

視察会・交流会 in 陸別に参加

札幌陸別会(伊藤一輔会長)主催の視察会・交流会in陸別が昨年9月1日と2日に開催され、本会の8名を含む4団体36名に加え、野尻陸別町長ら15名が地元から参加した。

関寛斎などの様々な研修、積極的な異業種交流や情報交換など、意義深い2日間となった。

<主な視察場所>

- ・陸別開拓の祖の関寛斎翁資料館、遺跡記念碑
- ・陸別ふれあいの森⇒道内でも貴重な水源林
- ・りくべつ宇宙地球科学館⇒日本最大級反射望遠鏡



参加メンバーと「関寛斎の埋葬地視察」および「交流会」の様子

石子理事長がホールインワンの快挙

本会の石子理事長は、道職員OBが主メンバーのゴルフコンペにおいて、ホールインワンを達成し、「平成28年春の叙勲」に続く快挙を打ち立てました。

なお、ゴルフ保険には加入しており「心配ご無用」のようです。

編集後記

今年中心に展開される北海道150年事業と本会との関わりや概況などを特集で紹介しました。

北海道150年事業は、「先人の財産を次世代につなぐ」がテーマの一つになっており、正に当会の「森づくり」と同じ発想です。そして、当会で培われたこれらの心意気や行動力などは、今後の北海道にとって大変重要で不可欠な要素と考えます。

これらを助案のうえ、北海道150年の記念に、一道民として何らかの足跡を残したいものです。

本ジャーナルが何かのお役に立てば幸いです。

本誌に関するご意見、情報や話題提供などをお待ちしております。(編集担当 岡田隆範)



NPO法人 北海道に森を創る会
札幌市中央区北4条西5丁目1番地
(北海道林業会館5階)

電話/FAX (011) 522-6570
Eメール moriotokuru@nifty.com
ホームページ <http://www.moriotokuru.org/>
勤務日 火・木曜日の10:00~16:00

会員ジャーナル 森のささやき 12号
発行 北海道に森を創る会事務局

森林のささやき

会員ジャーナル 第12号

2018年1月 発行



特集 北海道150年事業に沿った本会の取り組み
~北海道の礎「森林」に感謝の念を込めて~



「野ねずみ、エゾシカ対策が施された「未来の森・函館」



寒さにもめげずに保育作業に勤しむ参加者(未来の森・函館)



平成29年度 未来の森(函館)秋期育樹祭

北海道150年事業に沿った本会の取組み
～北海道の礎「森林」に感謝の念を込めて～

開拓判官「松浦武四郎氏」の提案により、蝦夷地が「北海道」と命名されて150年の節目の年を迎えました。北海道ではこれを記念して、これまで積み重ねてきた歴史や先人の偉業を振り返り、「未来へつなぐ、みんなをつなぐ」を基本理念に、以下のテーマや基本姿勢の下に「北海道150年事業」を推進しております。

本会は、これらの基本理念、テーマ、基本姿勢に沿った以下の「森づくり関連の事業」を展開しています。会員の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

<テーマ>

- 北海道151年目の新たな一歩を踏み出す
- 先人から受け継いだ財産を次の世代につなぐ
- “Hokkaido”の多様な魅力を世界に広げる



<基本姿勢>

- 未来志向
- 価値創造
- 道民一体

(1) 北海道植樹の日、育樹の日の制定運動

木材は、生産や水源のかん養、土砂流失の防止、二酸化炭素の吸収など様々な恩恵（北海道で年間約11兆円相当）をもたらしております。

そして、これらの恩恵は、北海道の礎を担う一翼として、重要な役割を果たしています。

そこで、本会では北海道150年事業の精神を踏まえ、これからの150年は森林に恩返しの間と位置づけ、木育（「木とふれあい、木に学び、木と生きる」の取組み）を含む「北海道の森づくり」に対する道民の意識高揚や啓発、推進などを目的とした

○北海道植樹の日…毎年5月第2土曜日（案）

○北海道育樹の日…毎年10月第3土曜日（案）

の条例制定を北海道および北海道議会に要望しております。

<本会の森づくり実践例（未来の森・函館）>

地元の㈱西武建設運輸様から5haの土地を借り、植樹や育樹など、13年間にわたり森づくりを進めてきました。

野ねずみ食害など数多くの難関を克服し、今では春は桜が咲き乱れ、秋には紅葉が一面に広がる森林に成長し、訪れる人々に感動を与えています。



(左)平成18年、ゴミ捨場化した土地で森づくりを開始
(右)平成27年、10年間の成果が実り、素晴らしい森林に

(2) 実行委員会を結成し、「北海道・森の未来づくり事業」を北海道150年事業に申請、登録

森づくりイベント実行委員会（委員長：北海道森と緑の会の堀達也理事長他、本NPO法人などの森づくで組織）を立ち上げました。

そして、同委員会は官民一体の「北海道・森の未来づくり事業」企画し、主催者として北海道150年事業に申請し、登録されました。

(3) 森林・樹木葬の事業化推進

樹木葬は、墓石の代わりに樹木を墓標として遺骨を埋葬し、故人を弔う自然志向のお墓で、日本では1999年以降に登場しました。

本会は、2005年の発足当時より森づくりの観点から事業化を進めております。特に、昨今は高齢や核家族化などを背景に注目されており、下記の視点により「森林・樹木葬」として促進中です。

- ・北海道内における樹木葬の普及および定着
- ・現存の森林を墓標とするドイツ型を指向
- ・道内モデルの早期確保

(4) 北海道観光振興と森づくり

インバウンドを含む観光客の「記念植樹の体験」による北海道旅行の思い出づくり事業です。

北海道にとって、観光の振興や「森づくりの大切さ」を世界に発信する絶好のチャンスでもあります。

(5) 「北海道元気の森」支援事業

現在、「子供達の生きる力を育てる」を目的に、道内全179市町村に元気の森が指定されております。

本会では、現在「元気の森・えりも」において、植樹など行っており、この事業を全道に広げたいと思っております。（次ページ参照）

平成29年度の主な活動報告

(1) 未来の森・函館

* 春季行事（5月26日、45名参加）

国の華幼稚園児、渡島総合振興局や函館サンモリツくらぶなどの地元の皆様と本会の会員（札幌、函館）などが協働で、昨年の秋に装着した野鼠食害防止用袋の取り外し、樹木や標柱の状態点検、補植などを行った。



笑顔の園児と一緒に作業に取り組む参加者

* 秋季行事（10月21日、27名参加）

食害防止の野鼠用袋や鹿防止用ネットの取り付け作業などを実施した。（表紙参照）



台風の影響状況確認と今後を検討する視察団

(3) 元気の森の支援

* えりも町庶野（6月5日、30名参加）

地元の皆様とバットの木のアオダモ250本の植樹と併せて、下刈りなどの維持管理作業を行った。



アオダモの植樹を終えて、えりも安孫子支部長の「おもてなし」による海の幸・山の幸を堪能

(4) 第68回北海道植樹祭

* 当別町道民の森（10月15日、13名参加）

約500名が約1000本を植樹し、当会はハルニレ、ケヤマハンソノキ、ヤチダモ、アカエゾマツの100本を担当した。（次ページ参照）



式典と植樹の様子

平成30年度の主な予定

今年の主な行事予定を紹介します。

詳細が決まり次第、別途ご案内申し上げます。

(1) 平成30年度通常総会（予定）

日時 4月27日（金）14:00～

場所 かでる2・7（札幌市中央区北2条西7丁目）

* 記念講演（検討中）

(2) 未来の森・函館

< 春季行事 >

5月11日（金）

< 秋季行事 >

10月上旬

(3) 茨木記念の森・八雲

5月11日（金）

現状視察会

(4) 元気の森・えりも

6月12日（火）

アオダモの植樹など

今後の展望

(1) 森づくりの推進

- ① 森林トラスト地の森づくり推進（濱田記念の森・砂川、茨木記念の森・八雲など）
- ② 森林・樹木葬モデル地の確立および候補地における森づくり
- ③ 森づくりに伴う間伐材などの活用

(2) 森づくりの支援

- ① 森林・樹木葬に関連する支援
- ② 北海道や地元との連携による「道内各地の元気の森」の支援

